

英語学と国語学のオンライン コラボ授業

教育学部 准教授 于一楽

教育学部 教授 松丸真大

1. 概要

これまで、本学では専門科目ごとに授業が実施されており、異なる専門の授業を共同で行うことはあまりされてこなかった。2020年度春学期の授業が原則すべてオンラインになったことをきっかけに、今回、複数の専門領域を連携して教授する「コラボ授業」という新しい取組に着手した。近年、言語学領域では、ことばの学習はそれぞれ単体で行うよりも母語と外国語を同時に活用したほうが効果的であるとの報告がされている（江利川春雄・久保田竜子(2014)「学習指導要領の『授業は英語で』は何が問題か」『英語教育』9月号）。また、平成29年告示の学習指導要領改訂や小学校の外国語（英語）のコアカリキュラムにおいても、国語科と外国語科の連携が推奨されている。例えば、小・中学校・高等学校国語科の学習指導要領解説においては、「指導に当たっては、外国語活動及び外国語科における指導との関連を図り、相互に指導の効果を高めることが考えられる」とある。一方、小学校教員育成課程外国語（英語）コアカリキュラムにおいても、「外国語（英語）で国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについて理解し、指導に生かすことができる」ということが到達目標として掲げられている。高等学校の学習指導要領解説【外国語・英語編】においても「言語能力の向上を図る観点から、言語活動などにおいて国語科との連携を図り、指導の効果を高めるとともに、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気づかせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるように工夫すること」と

あり、特に国語科と外国語科（英語）との連携が強く求められている。このような流れを受けて、今回、これまでは英語学と国語学を別々に学んできた学生に対して、于一楽の「英文法演習Ⅰ」と松丸真大の「国語学特殊講義」をコラボする形で両領域を同時に扱うことにした。

2. 授業の構成と工夫

授業は、基本的にYouTubeでの講義、SULMSのチャットを使った意見交換、課題の解説から構成した（図1を参照）。

動画をYouTubeに配信（図2）

（英語と日本語に共通するテーマを紹介し、それに関わる課題を与える）



SULMSのチャットで授業内容と課題内容について議論し、課題をSULMS上に提出



課題の解説をYouTubeに配信

図1 授業構成の概要

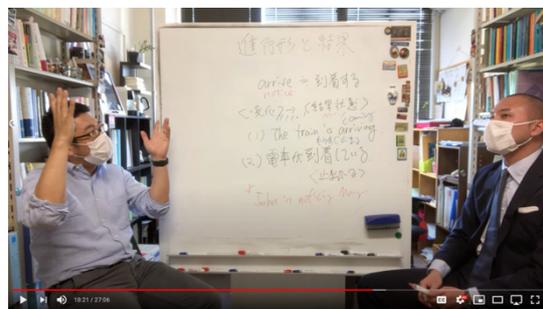


図2 YouTube授業の様子

ビデオは1回につき約30分で、毎回の授業で2~3編のビデオを視聴する。英語と国語の学生それぞれに対して別々の課題を毎回1~2種類提示した。SULMSのチャットは授業時間外でも開放することで、学生の事前・事後学習を促した。課題の解説など一部の動画は視聴可能期間の期限を長くし、繰り返して視聴できるようにした。動画の再生回数が履修学

生数を上回っていたことから事前学習・事後学習の時間として活用されていたと推察できる。授業アンケートを授業が3回終わるごとに実施し、合計で4回実施した。内容には、満足度の確認、質問の受付、要望を必ず含めた。アンケート内で要望があった事項に関しては、教員間で議論したのち、当初、予定していなかったテーマであっても動画で取り上げた。また、個別の質問に対しても動画で回答することで、すべての学生が共有できるようにして授業内容への理解度が高まるように工夫を施した。

3. 「気づき」と難易度別課題

何が言語の共通点と相違点を生み出しているのかが分かれば、言語の学習にも教育にも役立つ知見が得られることから、授業内では、日英語の例を比較しながら、言語の普遍性と個別性に気づいてもらえるように取り組んだ。

＜授業内容の例＞

- (1) a. The train is arriving.
b. 電車が到着している。
- (2) a. The vase broke (into pieces).
b. John ran (*breathless).
c. 花瓶が (粉々に) 割れた。
d. ジョンが (*くたくたに) 走った。

上の(1)の例は英語の-ing と日本語の「-ている」が同じ動詞についても英語と日本語で意味が変わる現象である。(2)の例は英語と日本語の自動詞で同様に結果を表す表現が付けられるものと付けられないものがある現象である。このように、個別言語に対する理解は、複数の言語を比較してはじめてわかるということに気づかせることで、ことばに対する知見を深め、多角的に物事を考える力を育成した。

課題は、英語と日本語の学生ごとに20個ずつ作成し、それぞれ難易度(1から3)を分けた。以下に課題の例を1つ示す。

課題の具体例 (難易度2)

英語の I love you. を日本語に訳すと「*私はあなたを愛します」ではなく「私はあなたを愛しています」になる。動詞の状態性という観点から love と「愛する」を比べてみよ。

課題解説動画内の模範回答に学生が納得できない場合は、その意見を動画で取り上げた上で、再度、解説を行なった。正解するかどうかよりは、回答に至る思考力・発想力を育てることも授業の目的であったため、このやりとりは有益に働いたと考える。学生からのコメントでも、1か0かではなく、課題に対するアプローチの仕方を評価してくれたことがよかったなどの意見があった。20個の課題とは別に、レベル4以上の応用課題を最後の授業で提示した。これは、卒業論文のテーマとしても扱えるもので、長い時間をかけて考えてほしいことをねらいとした。

4. 振り返りと展望

コラボ授業は、様々な領域を専門とする教員がコラボすることによって新たな研究領域を開拓できるという教育学部の特質を生かした広がり期待できる。また、異分野の横断的交流が学生と教員の双方で起こり、そのことが領域横断的で専攻・専修の枠を超えた主体的な学習を促すことにつながるため、教育を提供する側ならびに教育を受ける側の双方の教育改革につながると期待できる。

最後に今回のコラボ授業で見つけた課題を2つ挙げる。①動画の視聴時間が長く、課題も多かったので内容を詰めすぎた。②専攻・専修の枠を超えた学生同士のコラボができなかった。これらを克服する手立てとして、現在、対面を基本とするコラボ授業では、YouTube 講義と対面でのチュートリアル of 反転授業、英語学と国語学の学生からなるチームを構成し、合同で課題研究を行うなど、新たな取組にチャレンジしているところである。